2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月９日

上 場 会 社 名	ニューラルグループ株式会社	上場取引所	東
コ ー ド 番 号	4056	URL	https://www.neural-group.com/
代　　表　　者	（役職名） 代表取締役社長	（氏名）	重松 路威
問合せ先責任者	（役職名） 執行役員CFO 財務管理本部長	（氏名）	松田 拓也　（TEL）03-5157-2345
配当支払開始予定日	―		

決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：有

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益		調整後EBITDA※	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	3,237	27.7	△327	―	△354	―	△312	―	△89	―
2025年12月期第３四半期	2,535	△1.3	24	―	△9	―	△52	―	136	373.0

（注）包括利益 2026年12月期第３四半期　△314百万円（　―%）2025年12月期第３四半期　△53百万円（　―%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	△18.18	―
2025年12月期第３四半期	△3.41	―

（注）潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、１株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	4,884	1,554	31.5
2025年12月期	4,196	1,876	44.1

（参考）自己資本 2026年12月期第３四半期　1,538百万円　　2025年12月期　1,852百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2026年12月期	―	0.00	―		
2026年12月期(予想)				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		調整後EBITDA※	
	百万円	%	百万円	%
通期	5,300	60.6	400	―

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 調整後EBITDA ＝ 営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋取得関連費用

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更　　：有

新規	４社（社名）	株式会社ポマト・プロ、株式会社カクタス、魔法株式会社、株式会社ペガサス	除外	２社（社名）	ニューラルエンジニアリング株式会社、株式会社ペガサス

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：無

④　修正再表示　　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	17,191,031株	2025年12月期	17,191,031株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	184株	2025年12月期	184株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	17,190,847株	2025年12月期３Ｑ	15,508,502株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　　：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期連結累計期間の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期連結累計期間の財政状態の概況 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
第３四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
第３四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（追加情報） …… 9
（セグメント情報等） …… 9
（キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9
（企業結合等関係） …… 10
（収益認識関係） …… 14
（１株当たり情報） …… 15
（重要な後発事象） …… 16
（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更） …… 16

１．経営成績等の概況

（１）当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当社グループは「AIで心躍る未来を」をミッションとして、リアル空間のデジタル化による社会課題の解決を目指しております。当社グループ事業は、イノベーション領域とコアサービス領域の２つのドメインで構成されております。

イノベーション領域は、AI AgentやLLM等の先端技術領域の研究活動を企業と共同で推進し、AIアルゴリズムの研究をはじめとしたAI技術の研究・開発と売上創出を並行で行う領域です。コアサービス領域は、イノベーション領域を含めて当社グループ内で開発・獲得した新技術を随時取り込みつつ、成熟したAI技術や関連技術をサービス・プロダクトとして提供・販売することで、AIの社会活用を推進する領域です。これらの２つの領域は互いに密接に連携しており、イノベーション領域の研究開発および事業活動の中で得られた技術・経験をもとに、汎用的な社会ニーズをとらえたサービス・プロダクトを確立し、コアサービス領域として当社主導で社会に提供していくことで事業のスケール化を図るという構造になっております。当社は、両輪となるこれらの２つの領域の活動を通じて、社会環境の変化や新技術の急速な進展を踏まえた研究開発・事業活動を推進してまいります。

当第３四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、ロシア・ウクライナ情勢の長期化・中東の紛争激化に加え、欧米における金融引き締めの影響や中国経済に対する先行き懸念など、世界情勢に一層の不透明感が増しております。国内においては、インバウンド需要の持ち直しや雇用・所得環境の改善、各種政策の効果もあり、経済活動は緩やかな回復基調となりました。しかしながら、物価上昇による消費マインドの停滞や日銀の政策金利引き上げに伴う資金調達環境の悪化、中東情勢の悪化に伴う原油高や石油由来製品の調達リスクなど、依然として不透明な状況が続いております。一方で、AIに関する市場は世界的に急速な成長を続けており、生成AIや業務自動化ソリューションに対するニーズがかつてないほど高まっています。

また、当社グループは事業の非連続な成長を実現するため、M&Aによる事業拡大に注力しており、これまでに株式会社ポマト・プロ、株式会社カクタスに加え、ゲーミング・ソフトウェアの企画・開発等を展開する魔法株式会社の各社をグループに加えることとなりました。今後も積極的かつ継続的なM&Aを推進するための体制の整備やKPIに基づく管理により、M&A候補企業の情報が継続的に取得可能なネットワークを構築しております。今後は、当社グループにて獲得した業務・コストの最適化に関する取り組みの横展開と、相互送客や当社が独自に開発するAI技術の活用を推進することで、全社的なコスト競争力の強化を実現するとともに、収益性の改善と利益体制の安定化を図ってまいります。当第３四半期連結会計期間の売上高は前年同四半期対比で大幅に増加しており、今後も、AI技術を基盤とした既存プロダクトの拡張およびM&Aを含む戦略的パートナーシップの構築を通じて、収益基盤の多角化とキャッシュフローの改善を図り、中長期的な企業価値の向上に資する経営を目指してまいります。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は3,237,421千円（前年同四半期比27.7%増）となり、営業損失327,176千円（前年同四半期は営業利益24,840千円）、経常損失354,735千円（前年同四半期は経常損失9,538千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は312,463千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失52,819千円）となりました。

なお、当社グループの事業セグメントはAIエンジニアリング事業の単一セグメントのため、セグメント別の記載は省略しております。

より詳しい決算内容に関しては、当社IRサイトより、2026年11月9日発表の「2026年12月期 第３四半期 決算説明資料」をご覧ください。

参考URL:https://www.neural-group.com/ir/library/index.html

（２）当四半期連結累計期間の財政状態の概況

（資産の部）

当第３四半期連結会計期間末における流動資産は3,157,328千円となり、前連結会計年度末に比べ287,133千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が165,461千円減少したこと並びに受取手形、売掛金及び契約資産が330,831千円増加したことによるものであります。

当第３四半期連結会計期間末における固定資産は1,727,520千円となり、前連結会計年度末に比べ400,904千円

増加いたしました。これは主に、のれんが386,792千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は4,884,848千円となり、前連結会計年度末に比べ688,037千円増加いたしました。

（負債の部）

当第３四半期連結会計期間末における流動負債は1,785,471千円となり、前連結会計年度末に比べ399,688千円増加いたしました。これは主に、買掛金が244,731千円増加並びに1年内返済予定の長期借入金が93,787千円増加したことによるものであります。

当第３四半期連結会計期間末における固定負債は1,545,135千円となり、前連結会計年度末に比べ610,847千円増加いたしました。これは主に、長期借入金が523,092千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、3,330,606千円となり、前連結会計年度末に比べ1,010,535千円増加いたしました。

（純資産の部）

当第３四半期連結会計期間末における純資産合計は1,554,241千円となり、前連結会計年度末に比べ322,497千円減少いたしました。これは主に利益剰余金が312,466千円減少したことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の業績予想及び業績予想の前提となる条件につきましては、2026年２月13日に公表いたしました内容から変更はありません。当資料に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,217,012	2,051,550
受取手形、売掛金及び契約資産	394,420	725,251
棚卸資産	162,369	209,799
貸倒引当金	△2,058	△2,510
その他	98,451	173,237
流動資産合計	2,870,194	3,157,328
固定資産		
有形固定資産	61,414	146,679
無形固定資産		
のれん	839,692	1,226,485
その他	146,752	131,187
無形固定資産合計	986,444	1,357,673
投資その他の資産		
投資有価証券	157,215	77
繰延税金資産	815	73,459
敷金及び保証金	118,282	145,135
その他	2,443	4,494
投資その他の資産合計	278,756	223,167
固定資産合計	1,326,616	1,727,520
資産合計	4,196,810	4,884,848
負債の部		
流動負債		
買掛金	53,125	297,857
1年内償還予定の社債	10,000	－
短期借入金	600,000	604,169
1年内返済予定の長期借入金	455,350	549,137
賞与引当金	4,159	51,206
その他	263,148	283,101
流動負債合計	1,385,782	1,785,471
固定負債		
長期借入金	844,388	1,367,480
繰延税金負債	19,894	－
退職給付に係る負債	70,005	121,099
その他	－	56,556
固定負債合計	934,288	1,545,135
負債合計	2,320,071	3,330,606

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	2,266,898	2,266,898
利益剰余金	△420,334	△732,801
自己株式	△567	△567
株主資本合計	1,855,996	1,543,529
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△3,242	△4,835
その他の包括利益累計額合計	△3,242	△4,835
新株予約権	15,031	15,547
非支配株主持分	8,953	－
純資産合計	1,876,739	1,554,241
負債純資産合計	4,196,810	4,884,848

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	2,535,133	3,237,421
売上原価	895,637	1,561,015
売上総利益	1,639,495	1,676,405
販売費及び一般管理費	1,614,654	2,003,582
営業利益又は営業損失（△）	24,840	△327,176
営業外収益		
受取利息	812	5,003
為替差益	1,232	1,665
貸倒引当金戻入額	－	1,353
違約金収入	2,130	2,034
雑収入	392	1,583
その他	1	663
営業外収益合計	4,570	12,304
営業外費用		
支払利息	20,252	33,080
株式交付費	14,821	－
その他	3,874	6,783
営業外費用合計	38,949	39,863
経常損失（△）	△9,538	△354,735
特別利益		
投資有価証券売却益	－	43,684
特別利益合計	－	43,684
特別損失		
固定資産処分損	515	－
投資有価証券売却損	－	20
特別損失合計	515	20
税金等調整前四半期純損失（△）	△10,053	△311,071
法人税、住民税及び事業税	26,788	50,580
法人税等調整額	15,977	△49,188
法人税等合計	42,765	1,391
四半期純損失（△）	△52,819	△312,463
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	－	－
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△52,819	△312,463

四半期連結包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2025年１月１日 至 2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2026年１月１日 至 2026年９月30日）
四半期純損失（△）	△52,819	△312,463
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△801	△1,593
その他の包括利益合計	△801	△1,593
四半期包括利益	△53,621	△314,056
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△53,711	△314,056
非支配株主に係る四半期包括利益	90	465

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

前第３四半期連結累計期間(自　2025年１月１日　至　2025年９月30日)

１．配当金支払額

該当事項はありません。

２．基準日が当第３四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第３四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

３．株主資本の著しい変動

当社は、2025年９月10日を払込期日とする公募増資により、発行済株式総数が1,816,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ679,955千円増加いたしました。この結果、当第３四半期連結会計期間末において、資本金が700,977千円、資本準備金が1,879,928千円となっております。

当第３四半期連結累計期間(自　2026年１月１日　至　2026年９月30日)

１．配当金支払額

該当事項はありません。

２．基準日が当第３四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第３四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

３．株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

（追加情報）

（グループ通算制度の適用）

当社及び国内連結子会社は、グループ通算制度を適用しており、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号　2021年８月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第３四半期連結累計期間(自　2025年１月１日　至　2025年９月30日)

当社グループの事業セグメントは、AIエンジニアリング事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第３四半期連結累計期間(自　2026年１月１日　至　2026年９月30日)

当社グループの事業セグメントは、AIエンジニアリング事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

（キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 (自　2025年１月１日 至　2025年９月30日)	当第３四半期連結累計期間 (自　2026年１月１日 至　2026年９月30日)
減価償却費	33,878千円	34,277千円
のれん償却額	77,909千円	99,987千円

（企業結合等関係）

(取得による企業結合)

当社は、2026年２月12日開催の取締役会決議に基づき株式会社ポマト・プロ及び株式会社カクタスの株式を、2026年５月12日開催の取締役会決議に基づき魔法株式会社及び株式会社ペガサスの株式を、それぞれ取得し、子会社化しております。

１．株式会社ポマト・プロ

（１）企業結合の概要

①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社ポマト・プロ

事業の内容：イベントの企画運営、セールスプロモーション

②企業結合を行った主な理由

当社は、「AIで心躍る未来を」をミッションとして掲げ、画像解析・生成AI技術をはじめとする最先端テクノロジーの開発とビジネス活用を推進してまいりました。近年は、メディア領域における動画コンテンツ市場の拡大や、生成AI活用の社会的定着が進んでおり、当社の技術を活用できる領域はよりいっそう広がりつつあるものと考えております。特に、マーケティング・エンターテインメント・イベント等の領域において、生成AI技術の活用は加速度的に浸透しており、そうした市場の追い風を背景に、当社はM&Aを通じてエンタメ領域での事業の展開を急速に拡大してまいります。また、急速に進化する生成AI技術を特定の領域に適した形で独自に進化させ、実社会・ビジネスにおけるAI活用をより推進していくことで、当社のミッションである心躍る未来の実現につながっていくものと考えております。

ポマト・プロは、40年以上の歴史を持つ総合イベント企画制作会社であり、式典や展示会、スポーツイベント等の企画・運営を軸に、映像やWebコンテンツの制作、タレントのキャスティングまで一貫して手掛けております。さらに、店舗巡回による販売支援等のセールスプロモーションにも強く、現場力と創造力で企業のコミュニケーションを幅広く支援しています。

当社は、同社をグループに迎え、エンタテインメント領域に特化したAI技術の開発およびソリューション販売を加速させ、グループシナジーを最大限に活用した成長戦略を推進してまいります。リアルな体験価値と先端テクノロジーを掛け合わせることで、市場における競争優位性を確立し、さらなる企業価値の向上に邁進してまいります。

③企業結合日

2026年２月27日

（みなし取得日：2026年２月28日）

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

⑤結合後企業の名称

株式会社ポマト・プロ

⑥取得した議決権比率

100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として、株式を取得したためであります。

（２）四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2026年３月１日から2026年９月30日まで

（３）被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	73,000千円
取得原価		73,000千円

（４）主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用等　15,009千円

（５）発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれんの金額

39,830千円

なお、当該金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

②発生原因

主として、今後の事業展開によって期待される超過収益力であります。

③償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

２．株式会社カクタス

（１）企業結合の概要

①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社カクタス

事業の内容：イベント・プロモーションの企画、制作、運営

②企業結合を行った主な理由

当社は、「AIで心躍る未来を」をミッションとして掲げ、画像解析・生成AI技術をはじめとする最先端テクノロジーの開発とビジネス活用を推進してまいりました。近年は、メディア領域における動画コンテンツ市場の拡大や、生成AI活用の社会的定着が進んでおり、当社の技術を活用できる領域はよりいっそう広がりつつあるものと考えております。特に、マーケティング・エンターテインメント・イベント等の領域において、生成AI技術の活用は加速度的に浸透しており、そうした市場の追い風を背景に、当社はM&Aを通じてエンタメ領域での事業の展開を急速に拡大してまいります。また、急速に進化する生成AI技術を特定の領域に適した形で独自に進化させ、実社会・ビジネスにおけるAI活用をより推進していくことで、当社のミッションである心躍る未来の実現につながっていくものと考えております。

カクタスは、イベントの企画・運営からグラフィック・Webデザインまでをワンストップで提供するクリエイティブ企業です。商業施設のプロモーションやエリアマネジメント、自治体の地方創生事業など、リアルとデジタルの垣根を越えた賑わい作りを強みとしています。

当社は、同社をグループに迎え、エンタテインメント領域に特化したAI技術の開発およびソリューション販売を加速させ、グループシナジーを最大限に活用した成長戦略を推進してまいります。リアルな体験価値と先端テクノロジーを掛け合わせることで、市場における競争優位性を確立し、さらなる企業価値の向上に邁進してまいります。

③企業結合日

2026年４月１日

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

⑤結合後企業の名称
株式会社カクタス

⑥取得した議決権比率
100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠
当社が現金を対価として、株式を取得したためであります。

（２）四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間
2026年４月１日から2026年９月30日まで

（３）被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	500,000千円
取得原価		500,000千円

（４）主要な取得関連費用の内容及び金額
アドバイザリー費用等　36,273千円

（５）発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間
①発生したのれんの金額
291,357千円
なお、当該金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

②発生原因
主として、今後の事業展開によって期待される超過収益力であります。

③償却方法及び償却期間
10年間にわたる均等償却

３．魔法株式会社及び株式会社ペガサス
（１）企業結合の概要
①被取得企業の名称及びその事業の内容
被取得企業の名称：
魔法株式会社
株式会社ペガサス
事業の内容：
魔法株式会社：遊技機液晶部の企画・制作
株式会社ペガサス：資産管理

②企業結合を行った主な理由
当社は、「AIで心躍る未来を」をミッションとして掲げ、画像解析・生成AI技術をはじめとする最先端テクノロジーの開発とビジネス活用を推進してまいりました。近年は、メディア領域における動画コンテンツ市場の拡大や、生成AI活用の社会的定着が進んでおり、当社の技術を活用できる領域はよりいっそう広がりつつあるものと考えております。特に、マーケティング・エンターテインメント・イベント等の領域において、生成AI技術の活用は加速度的に浸透しており、そうした市場の追い風を背景に、当社はM&Aを通じてエンタメ領域での事業の展開を急速に拡大してまいります。また、急速に進化する生成AI技術を特定の領域に適した形で独自に進化させ、実社会・ビジネ

スにおけるAI活用をより推進していくことで、当社のミッションである心躍る未来の実現につながっていくものと考えております。

魔法は、1985年の設立以来、40年以上にわたりゲーム機用ソフトウェア、ゲームアプリ、遊技機向けソフトウェアを中心に、人々の心に響くエンターテインメントコンテンツを多数、企画・開発してまいりました。「自分たちがまず楽しむ」という独自の開発文化から生まれる独創的なアイデアと、長年蓄積された技術力を強みに、既存の枠にとらわれないエンターテインメントの価値を幅広く提供しています。

ペガサスは、魔法社の株式を所有する資産管理会社であり、魔法社を早期に完全子会社化するために株式を取得しております。

当社は、これらの会社をグループに迎え、エンタテインメント領域に特化したAI技術の開発およびソリューション販売を加速させ、グループシナジーを最大限に活用した成長戦略を推進してまいります。リアルな体験価値と先端テクノロジーを掛け合わせることで、市場における競争優位性を確立し、さらなる企業価値の向上に邁進してまいります。

なお、当社グループ全体で保有する経営資源の効率化ならびに組織および事業の合理化を図るため、当第３四半期連結会計期間において、魔法株式会社を存続会社とし、株式会社ペガサスを消滅会社とする吸収合併を実施いたしました。

③企業結合日

2026年６月１日

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

⑤結合後企業の名称

魔法株式会社

株式会社ペガサス

⑥取得した議決権比率

魔法株式会社：100%（間接保有分を含む）

株式会社ペガサス：100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として、株式を取得したためであります。

（２）四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

魔法株式会社：2026年６月１日から2026年９月30日まで

株式会社ペガサス：2026年６月１日から2026年８月31日まで

（３）被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	500,000千円
取得原価		500,000千円

（４）主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用等　51,930千円

（５）発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれんの金額

155,591千円

なお、当該金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

②発生原因

主として、今後の事業展開によって期待される超過収益力であります。

③償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益の分解情報

当社グループはAIエンジニアリング事業の単一セグメントであり、顧客との契約から生じる収益の内訳は以下のとおりです。

	前第３四半期連結累計期間 (自　2025年１月１日 至　2025年９月30日)	当第３四半期連結累計期間 (自　2026年１月１日 至　2026年９月30日)
イノベーション領域	422,507千円	362,426千円
コアサービス領域	2,101,824千円	2,870,465千円
顧客との契約から生じる収益	2,524,332千円	3,232,891千円
その他収益	10,800千円	4,530千円
外部顧客への売上高	2,535,133千円	3,237,421千円

（１株当たり情報）

１株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自2025年１月１日 至2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自2026年１月１日 至2026年９月30日）
１株当たり四半期純損失(△)	△3円41銭	△18円18銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(千円)	△52,819	△312,463
普通株主に帰属しない金額(千円)	－	－
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(千円)	△52,819	△312,463
普通株式の期中平均株式数(株)	15,508,502	17,190,847
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後１株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	－	－

（注）潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、１株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

（重要な後発事象）
該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）
（１）連結の範囲の重要な変更
第１四半期連結会計期間より、株式取得により株式会社ポマト・プロを、第２四半期連結会計期間より、株式会社カクタス、魔法株式会社、株式会社ペガサスを連結の範囲に含めております。また、当第３四半期連結会計期間において、ニューラルエンジニアリング株式会社及び株式会社ペガサスは吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

（２）持分法適用範囲の重要な変更
該当事項はありません。